

学校名	新座市立第六中学校
実施日	令和2年 1月27日

<記入の仕方>

○「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「学校関係者評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由を記入してください。

評価項目「個に応じた指導（独自項目）」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、生徒の自己有用感を高め、確かな学力と社会性を身に付けさせるために指導法の工夫、改善に努めている。	B	自尊感情の低下、規範意識の低下、家庭での学習環境の複雑化といった学力向上を阻害する要因を抱える生徒が多い。そこで、「自己有用感の向上」を共通目標に、授業改善を進めている。教員間では自らの授業の在り方を振り返り、成長につなげようとする機運が高まっている。	B	児童生徒「ひとり一人」の個性を尊重して、学習に集中できる環境を整え、自主的・主体的に活動し「知る力」「生きる力」を養うため学校研究課題に基づき授業づくりを進めている。共通の研究視点で様々な教科の授業を参観し合い、授業のあり方を振り返り、わかる授業、伸ばす授業、定着する授業を目指す事を授業像に掲げている。生徒の自己有用感を高め、確かな学力と社会性を身に付けさせるために指導方法を改善し工夫することを、学校研究課題
2	学校は、特別な教育的ニーズの把握に努め、それぞれの特性に応じた支援を行っている。	A	一人一人の教育的ニーズを部会を中心に組織的に吸い上げている。併せて支援策についても、専門スタッフからの知見を参考に具体的に組み立てている。全教員が取り組む情報ファイルは、効果的に活用されている。ニーズの多様化・細分化に伴い、実際の支援にあたる人手不足が課題である。	A	一人ひとりの教育的ニーズを把握し、特別支援教育の視点から支援体制をつくり、生徒の特性把握に全教員で取り組む姿勢は評価できる。各学級担任が学習意欲向上に前向きであり「ひとつこ」IT室に生徒のニーズに応じて、目標の生徒の行動や意欲を意欲して真摯に取り組む姿勢が、素晴らしい。特に、特別支援教育コーディネーターを中心に組織的に対応していること、情報ファイルを有効活用していることは高く評価できる。学習意欲の向上を目指して、ひとり一人の生徒が、見守られ支援されているという実感があつて
3	学校は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との連携協力による教育相談を適切に実施している。	A	取り扱う事案が複雑で改善が進まない事例も多く、対応に苦慮しているもの。教育相談の専門家であるスクールカウンセラー、社会福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーとの連携が円滑に進むようになり、見通しをもって相談活動ができるようになった。	A	学校、家庭、地域、各関係機関が連携して取組まなくてはならない課題が増加している。スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとの連携を進め、教育相談窓口の裾野を広く有効に活用しており評価できる。特に、突発的事案の発生に対しては、カウンセラーやソーシャルワーカー等が連携して迅速に対応している。困った際の相談には、担任の教員、さわか相談室、カウンセラー相談があり、解決に向けて多様な選択肢がある事を広く周知に知らせ、教育相談を適正に実施しており、評価に値する。丁寧な相談活動をお願い

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は、校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	本年度は多くの職員が異動した時期に当たったため、新たな主任層の育成に力を入れている。いまだに体制が脆弱な分掌もあるが、いずれも試行錯誤を重ねながら、組織力の向上に努めている。	B	校長の経営方針に基づき、学年・学級経営が行われており、学校全体の指示物、教室経営、学校により等々に振り分けられている。校務分掌や主任制などは整っており適切に機能している。職員が相互に連携して個々の役割を自覚し、主任・校務分掌を有効に機能させ、組織の運営に参画している。教職員が相互に協力・連携して、分掌組織の意義と学校運営上の位置づけを自己評価制度の活用を図りながら、職務における責任体制を明確化にして業務役割を確立し円滑な授業の遂行に努めている。異動してきた職員を育て組織力の向上に努めてほしい。
5	学校は、学校経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じてPDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	校長が掲げる目指す学校像に連鎖させながら各自が目標を立て、実践を重ねている。学期末に各部会を位置付け、定期的に計画の見直し・改善が図られている。	B	校長が掲げる学校経営方針に基づき、学年・学級・校務分掌が適正に推進されている。保護者や地域の声を聴きながら各行事に丁寧に取り組んでいる。加えて、学力の向上を目標に各教科指導において熱心であり、目標を具体的に明確して個々の課題に取り組み、日々実践を重ねている事は評価できる。PDCAサイクルの機能を有効に使い学校経営に努めており評価に値する。定期的に計画を見直し、継続的な改善に努めていただきたい。
6	学校は、事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	A	問題行動・安全教育・教育相談・保健・給食等、校務必携マニュアル・生徒指導上の確認事項として年度の初めに全職員に周知し、共通理解を図っている。その結果、迅速な対応につながっている。事故の未然防止を効果的に進めるために、関連各部会の主任の対応力を高めることが課題である。	A	問題行動・安全教育・教育相談・保健・給食等、校務必携マニュアル・生徒指導上の確認事項として年度初めに全職員に周知し、共通理解を図った事は、組織運営において高く評価できる。事故や不審者の侵入等の緊急事態に備えて、各領域の危機管理マニュアルを作成し、危機管理体制を整え、全教職員が一丸協力して取組む姿勢が、迅速な対応につながり、生徒、保護者、PTA、地域の方の関心を高め信頼を生み、評価の値を高めている。首都直下型地震や自然災害、不審者などの想定外の問題の確を高めるべく、引き続き安心・安全を継続的に確保し、危機管理マニュアル等を再点検するなどして、迅速に対応できる体制を整備して欲しい。緊急病時の情報、ケガ情報についても迅速に保護者に伝え、不審者情報は、地域と連携して対策を練り定期的に連絡会議を開き意思疎通を図り「コミュニティ・スクール」を意識して、学校システムを組織的に構築しており、学校への期待・信頼性も増しており、評価の数値も高い。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	A	「授業の約束10ヶ条」は生徒に定着し、授業を受けるルールが徹底され、どの教科も落ち着いて授業を受けている。その一方で、新学習指導要領が示す学びの視点を考慮に入れて内容を精査する時期にも来ている。落ち着いた雰囲気の中で質の高い学びを保障する授業の在り方を、捉え直す必要がある。	A	どの学年の生徒も学習意欲を継続して維持しており、落ち着いた中で授業に取り組んでいる。「授業の約束10ヶ条」が定着し、授業を受けるルールが徹底され、授業規律も安定して保たれ、授業内容の質も向上し、学習意欲も向上している。生徒が「学びの価値」を発見し「学びの本質」に触れて、主体的に学ぶ姿勢と学習意欲の基礎を育み、質の高い授業が展開されている。「ひとり一人」の児童生徒が、貴重な時間を学校で過ごし、質の高い授業に多く触れる事により、各教科を通して「学びを学ぶ」その価値を深く知り、将来の夢に向かって学ぶための学習ツールを獲得するプロセスを大切にしている。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を充実した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	これまでの研究の成果を生かしながら授業実践を継続しており、言語活動の充実が図られている。また、学力向上プランにも明記し、計画的な指導を行っているところである。今後は、生徒の主体的な学びにつなげられるようさらに工夫していく。	B	学力向上を目標に言語活動を重視し、各授業で言語活動を意図した取組と工夫がみられる。全ての教職員が熱心に各教科運営の充実に向けており、生徒の積極的な授業姿勢の中に、その成果を検証できる。思考力、判断力、表現力を育むには、授業中驚きの発見があり、授業内容が魅力的である事、授業展開に創意工夫が見られ事と学習意欲が前向きに向上し、充実した授業展開となる。この事項を踏まえ、継続的に努力を怠る事なく、授業研究に積極的に取り組む、魅力ある授業・教科づくりを目指して欲しい。自立性と主体性を重視し児童生徒の成長に期待して、可能性を開花させるため授業研究をさらに進めていただきたい。
9	学校は、学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	A	学習指導要領等の趣旨に沿った効果的な学習指導が展開できるよう努めている。全国調査並びに県調査に表れる個々の生徒に係る学力・学習状況をさらに、きめ細かに分析し、実態に基づく授業改善を図っている。	A	文部科学省や県・市の方針に従って、言語活動を重視した中で充実した授業活動を展開し、各事項について取り組んでおり高く評価できる。近く遠く遠く教育の教科導入が決定される中、新たな学習指導要領が示される事から、国・県・市からの方針を受け、学校運営の視点を考慮し、現状の分析を踏まえて、生徒の実態を考察し、学力の向上に努めていきたい。また、生徒「ひとり一人」の個性や主体性を尊重して、学力、能力に即した学習指導を行い、基礎学力の定着、応用・発展的な学力の習得に結び付け授業に努め、知識習得へのプロセスを考慮した授業展開、授業改善を図り「学びの学びへの基礎」を構築して欲しい。
10	学校は、英語（英会話）の授業を充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成（国際理解教育の推進）に努めている。	B	外部検定試験等を活用しながら、英語に関する関心、意欲を高めている。ただ、自ら進んで表現することにはやや消極的な面もあり、英語加配教員やAETとの一体となった指導を一層進めている。	B	外部英語検定などの活用や大層テレビなど、様々な教材・教員を駆使して、英語の英会話への興味関心を高め、生徒が楽しく英語学習に取り組めるように工夫されており、評価できる。日常生活の中で英語学習に取り組むよう工夫されており、評価できる。日常生活の中で英語学習に取り組むよう工夫されており、評価できる。日常生活の中で英語学習に取り組むよう工夫されており、評価できる。日常生活の中で英語学習に取り組むよう工夫されており、評価できる。

